

時間割コード	第1学期:774110、第2学期:774210	開講区分	第1、2学期
曜日・時間	集中講義:第1学期7月20日(水)～23日(土)、第2学期2月1日(水)～4日(土) 各日1～4時限 (※いずれか一つを受講すること。)		
開講科目名	コミュニケーション支援学演習	定員	8名以内
開講科目名(英)	Training Program on Communication Disorders	単位数	2単位
場 所	金沢校講義室、平谷こども発達クリニック	年次	2年
担当教員	大井 学、荒木友希子、吉村優子、平谷美智夫、小林宏明(金沢校)	授業形態	講義(オムニバス方式)、演習
講義題目	コミュニケーション支援学演習		
開講言語	日本語		
授業の目的	対人コミュニケーションは、ヒト社会における情報交換の基幹である。この情報交換の発達と子どものこころの発達には密接な関係がある。本演習では、対人コミュニケーションの発達異常、その診断法、さらに支援法に関して講義・演習を介して学ぶ。		
学習目標	人と人のコミュニケーションのメカニズムを分析する手法を、会話分析、実験法、臨床評価の3つの分野にまたがって獲得する。		
授業計画	<p>1. 講義(オムニバス方式/全6回)  (大井 学/2回)  発達障害と子どもの心をめぐる諸問題を子どもと大人あるいは子供と子供のコミュニケーションの不全という観点から概説する。  (小林宏明/1回)  発達障害と子どもの心をめぐる諸問題を子ども及び大人のコミュニケーション能力の未熟さという観点から理解する。  (吉村優子/1回)  コミュニケーション能力の発達、行動学的評価、コミュニケーション能力の背景にある音声・音知覚能力の測定評価について概説する。  (荒木友希子/1回)  支援者のコミュニケーション・スキルの習得を目的としたマイクロ・カウンセリングの理論について概説する。  (平谷美智夫/1回)  クリニックでの診療場面を見学していただき、発達障害の診断プロセス・治療・療育を通して発達障害の理解を深めていただく。</p> <p>2. 演習(全9回)  (大井 学/2回)  高機能自閉症、アスペルガー症候群、学習障害、特異的言語障害、注意欠陥・多動性障害、不登校、集団不適応などの種々の障害をもつ子どものコミュニケーションを観察・記述する方法を学ぶ。  (小林宏明/2回)  各種検査の成績とコミュニケーションのビデオ記録などの教材を活用して、言語能力、社会的認知、感覚運動機能、感情機能などがコミュニケーションに及ぼす影響について評価にあたる。  (吉村優子/1回)  発達障害の行動学的評価法などについて、模擬場面で知る。また、末梢から中枢までの聴覚情報処理の評価法について学ぶ。  (荒木友希子/2回)  マイクロ・カウンセリングの各技法(基本的傾聴、および、積極技法)について、ロール・プレイによるトレーニングの体験を通じて実践的に学ぶ。  (平谷美智夫/2回)  主に医療(診断・治療)・療育面から、有効な支援の方法に関して演習を行い、有効な支援のあり方について習得する。</p> <p>第1回 自閉症児と大人との会話分析 I 講義</p>		

	第2回 自閉症児と大人との会話分析Ⅱ講義
	第3回 自閉症児と大人との会話のビデオ分析Ⅰ
	第4回 自閉症児と大人との会話のビデオ分析Ⅱ
	第5回 発達障害がある子どもとのコミュニケーションを考える際の視点
	第6回 発達障害がある子どもとのコミュニケーションを考える1(認知能力との関係)
	第7回 発達障害がある子どもとのコミュニケーションを考える2(感情機能との関係)
	第8回 発達障害児におけるコミュニケーション発達の概要
	第9回 発達障害のコミュニケーションや聴覚情報処理の評価法
	第10回 マイクロ・カウンセリングの理論
	第11回 マイクロ・カウンセリングの実践(基本的傾聴)
	第12回 マイクロ・カウンセリングの実践(積極技法)
	第13回 発達障害の診断・治療・療育(講義)
	第14回 発達障害の診断・治療・療育(演習)
	第15回 発達障害の診断・治療・療育(演習)
授業外における学習	講義に関連する文献をあらかじめ配付する。それを熟読したうえで講義に臨む。
教科書・参考書等	授業中に指示、または資料を配付する。
成績評価	出席回数が2/3以上に達した学生に対して、講義への参加・聴講態度をもとに判断し、一定の基準に達した者に対して、2単位を認定する。
コメント	・授業を受講するにあたり特別な配慮を必要とする学生は、授業開始前に申し出ること。